

# 総合科目 I

東京大学 (後期) 1/2

## <全体分析>

試験時間 120 分

### 解答形式

すべて記述式

分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・変化なし・増加) 難易 (易化・変化なし・難化)

### 出題の特徴

大問2問構成。それぞれ、英文和訳問題が1題、自由英作文が2題出題されている。

### その他トピックス

- ・2013年度、総語数がその前年の1,896語から1,651語へと減少し、2014年度は1,520語でさらに減少したが、2015年度は1,733語で200語程度増加した。
- ・以前は、日本語での要約問題が2題出題されていたが、2012年度に1題は英文和訳問題、もう1題は日本語による要約問題となった。以後その形式が続いていたが、2015年度は要約問題がなくなり、英文和訳問題が2題になった。
- ・英作文のうち1題が要約問題になった。

・出典は以下のとおり。

第1問: Eugene Linden, "The Parrot's Lament and Other True Tales of Animal Intrigue, Intelligence, and Ingenuity"

第2問: Rolf Dobelli, "The Art of Thinking Clearly"

## <大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	読解総合 英作文	「動物にみられる協力行動」 (1,039 words)	(1) 下線部和訳 (2) 本文で論じられている野生動物と捕獲された状態の動物の行動における共通の特徴について、自分の考えを英語で述べる (80~120語)。 (3) 本文中の Why would an animal want to cooperate with a human? という疑問に対し、テキストは全体的に一貫してこれに答えているかどうかについて、自分の考えを正当な根拠を添えて英語で述べる (80~120語)。	標準
第2問	読解総合 英作文	「the swimmer's body illusion について」 (694 words)	(1) 下線部和訳 (2) 本文で論じられている the swimmer's body illusion の内容を英語で要約する (80~120語)。 (3) the swimmer's body illusion に関して、筆者に賛同しない人がいるかもしれない複数の理由を英語で述べる (80~120語)。	標準

注: 区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

# 総合科目 I

東京大学 (後期) 2/2

## <学習対策>

120 分で大問 2 題なので、時間は十分あるように思うだろうが、英文の総語数は 2,000 語近くあり、指定語数が 80~120 語の英作文を 4 つ書かねばならないため、実際は、時間的余裕はあまりない。和訳が求められる部分は長く、受験生に馴染みのない表現も含まれているが、レベルとしては標準である。英作文は、前期日程で出題されるものとはタイプが異なり、また指定語数も多いので、時間配分に留意する必要がある。与えられた英文を要約したり、英文の内容に対する自分の見解を表現したりする力が求められている。なお、平成 28 年度入学者選抜から、現在の後期日程試験に替えて推薦入試を導入する。